

藪越遺跡 発掘だより No.2

弥生人の暮らしが分かる豊富な資料が出土！

6月末から発掘調査を開始した飯田市上郷^{かみさと}にある藪越遺跡は、今年度の調査を終了しました。第1面に引き続き、第2面の調査では新たに^{たてあな}竪穴建物跡2軒と^{どこう}土坑4基、^{みぞあと}溝跡3条の遺構がみつかりました。竪穴建物跡（SB5）からは弥生時代後期の生産用具である^{かめ}甕や^{つぼ}壺、^{たかつき}高坏の破片や石器も複数発見されました。狭い範囲ではありましたが、この調査で弥生時代、ここにいた人々の暮らしの一端が明らかとなりました。



弥生時代の集落跡(北から)

【高坏】たかつき

脚部に複数の穿孔がある

【磨製石包丁】ませいしほうちょう

伊那谷に特徴的な一つ孔のもの

【壺】つぼ

伊那谷の弥生後期に
特徴的な形と文様

【砥石】といし

表面がすり減っている

【台石】だいし

整った形の花崗岩の巨礫(約 30 cm)

竪穴建物跡(SB5)の遺物出土状況(東から)

【土器埋設炉】どきまいせつろ

土器の外側に焼土が広がっている

弥生時代の家を掘る！

SB5 の中央部東側からは甕や壺、高坏などの土器片が集中的に出土しました。そのほか磨製石包丁や砥石、台石など食料生産活動に関わる道具も出土しました。炉跡は中央よりやや南側にあり、土器が埋設してありました。これらの甕や壺は^{たんぼ}丹保遺跡（飯田市上郷飯沼）で見つかった弥生時代後期のものとよく似ています。そのため、建物は今から約 1800 年前頃に使用されていたものと考えています。

今後、炉跡内の土壌の水洗選別を行い、炭化米などの^{すいせんせんべつ}微細遺物が含まれているかを調べます。



丹保遺跡出土 高坏

〈写真〉長野県埋蔵文化財センター編 1994『赤い土器のクニ：長野県立歴史館開館記念企画展図録』より作成

【↑ 弥生土器の分類】

甕・壺・高坏は、それぞれ煮炊きや貯蔵、盛り付けなどに使われていたと考えられています。



【← 炭化物サンプリングの様子】

炉跡から炭化物をサンプリングしています。炭化物は素手で触れないようにしてアルミホイルで丁寧に包みます。専門機関での科学的な年代測定を行うことで約 50 年～100 年単位の精度で年代を知ることができます。



長野県埋蔵文化財センター 飯田支所

〒395-0151 飯田市北方 297-5

担当：長谷川桂子 両角太一

TEL : 0265-49-0736

メール : maibun@naganobunka.or.jp

H P : <https://naganomaibun.or.jp>